

株式会社協坂農場（滋賀県東近江市）

組織の概要

- 構成員：役員 3 名、常時雇用 7 名、臨時雇用 5 名。
- 平成20年に父親から経営移譲され、平成28年に法人化。
- 水稻、麦、大豆、そば等の土地利用型作物を中心に経営発展を目指す。
- 近隣集落から農地を預かる等、地域の受け皿として、地域農業の維持・発展に寄与。（株）協坂農場



生産概要

- 【経営規模】水稻：110ha、麦：63ha、大豆：73ha、そば：17ha（R5）
農産物加工（餅、赤飯、おはぎ等） 他
- 3年4作体系でのブロックローテーションの実施（水稻→水稻→麦→大豆）
- 地元集落・農業者との話し合いを通じ、麦跡水田を借り受け、大豆の他、そば、小豆等の生産を拡大。

取組のポイント

<需要に応じた生産>

- 実需の要望に対応した麦・大豆品種を作付け。
作期分散を図るため、麦 3 品種、大豆 6 品種を栽培。
- 刈り取り速度、処理能力が高い汎用コンバインの導入（R4）により、収穫作業能力が1.5倍に向上し、作付面積が拡大。また、複数品種の成熟に応じた収穫が可能となり、高品質な麦・大豆を実需者に提供。



大豆播種作業の様子

<麦・大豆の生産性の安定化に向けた排水対策の実践>

- 本事業でカットブレーカー、カットドレーンを導入し排水対策を行うことで、排水条件の悪い地域でも麦・大豆の作付けが可能となり、面積が拡大するとともに、生産性も向上。



カットドレーン

<団地化・面積拡大に対応した機械化体系>

- 農地の集積・集約、地域集落・農業者との調整により、団地化に努めている。
- 天候により作業期間が限られるなかで、けん引式のレーザーレベラーおよび高速畝立播種機を導入し、効率よく作業することで、面積拡大に応じた適期播種が実現。
- GPS付きトラクターによる播種作業やドローンによる病虫害防除等、スマート農業機器の活用に加え、汎用コンバイン、汎用乾燥機等の高性能機械の導入により、作業効率が向上し、面積を拡大しても適期収穫、乾燥・調製が実現。



汎用コンバイン

取組成果

<麦・大豆生産の高位安定化を実現>

ほ場の団地化により、作業効率を向上させ、麦・大豆の作付面積を拡大する。

- 面積の拡大
麦 61.9ha（R4）→**63.1ha（R5）**→86.2ha（R8目標）
大豆 68.0ha（R4）→**72.5ha（R5）**→85.1ha（R7目標）
- 団地化率の向上
麦 47.5%（R4）→**55.7%（R5）**→73.4%（R8目標）
大豆 55.0%（R4）→**60.9%（R5）**→77.2%（R7目標）

